



名古屋コーチンの肉用新系統「NGY7」※を開発

— 体重が増加し、鶏肉の生産量もアップ —

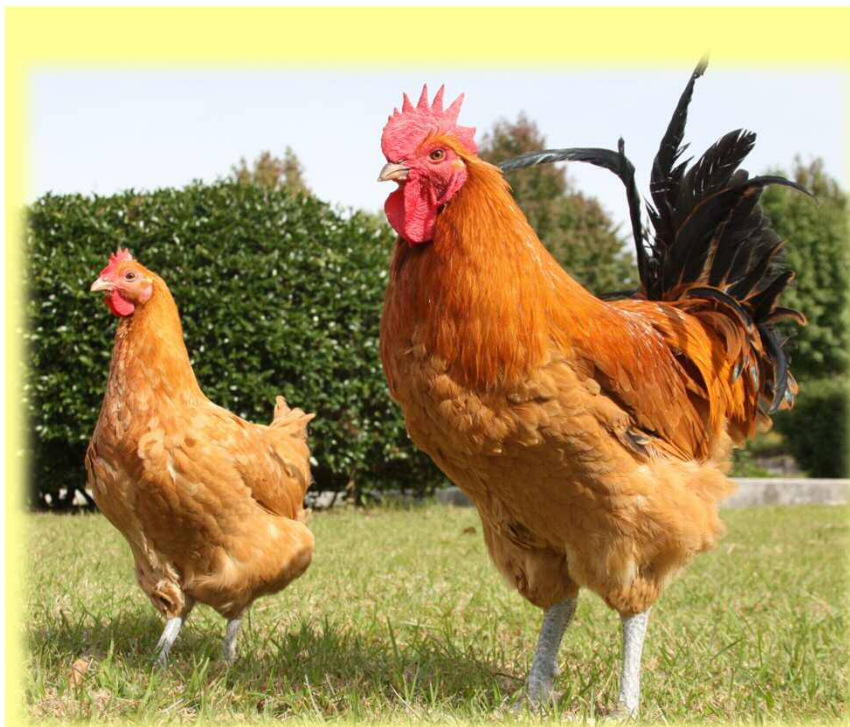
開発の背景・ニーズ

名古屋コーチンは、純粋種のまま生産する全国唯一のブランド地鶏です。平成3年度に開発した名古屋コーチンの肉用系統「NGY3」は、近親交配により生存率などの能力が次第に低下していたことから、この後継として、平成16年度から新しい肉用系統「NGY7」の開発に取り組みました。

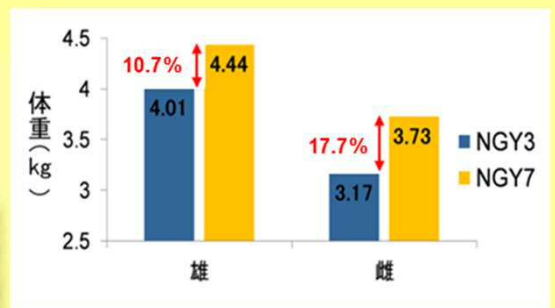
成果の内容

長年の改良を重ねて開発した「NGY7」は、「NGY3」と比べて、以下の点が向上しました。

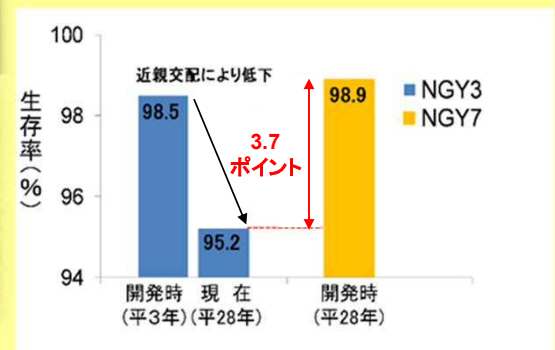
- 成鶏時（250日齢）の体重が10%以上アップし、産肉性が増しました。
- 生存率が改善され、丈夫で飼育環境の変化などに対するストレスに強くなりました。



新系統「NGY7」（左：雌、右：雄）



成鶏時（250日齢）の体重



育成時（150日齢）の生存率

愛知県農業への貢献

「NGY7」は、平成30年春から民間孵化場に供給され、その後、民間孵化場から生産者へ「NGY7」を利用した実用鶏の雛が供給されます。

「NGY7」の普及により、愛知が誇るブランド鶏「名古屋コーチン」の鶏肉の生産量がアップし、安定供給に貢献できます。

※「NGY」は名古屋コーチンの「NaGoYa」の頭文字を示し、「7」は愛知県で保有する7番目の系統を意味しています。